

カナダ国民において線維筋痛症
の病名を知っている人の割合

戸田克広

カナダ国民において線維筋痛症の病名を知っている人の割合

〒738-0060広島県廿日市市陽光台5丁目12番

廿日市記念病院リハビリテーション科

戸田克広

Proportion of persons who know a syndrome name of fibromyalgia in Canada

Department of Rehabilitation, Hatsukaichi Memorial Hospital

Katsuhiko Toda

キーワード：線維筋痛症（fibromyalgia）、カナダ（Canada）、有病率（prevalence）

緒言

日本では線維筋痛症（fibromyalgia: FM）という病名は一般の人にはほとんど知られていない[1]。一方、北米は最もFMが社会に普及している地域の一つである。カナダ国民においてFMの病名を知っている人の割合を調べた。

対象と方法

第13回国際疼痛学会学術集会が2010年8月29日から9月2日までの5日間カナダのケベック州モントリオールにおいて開催された。その会場の係員25人と某大学内の書店店員3人の合計28人にFMという病気の名前を知っていますかと英語（「ファイブロマイアルジア」または「フィブロミアルジア」）で尋ねた。ケベック州はフランス語圏であるが筆者はフランス語を全く話せないこと、および会場の係員と某大学内の書店店員は英語を話したため英語でインタビューを行った。

結果

女性14人中11人（78.6%）、男性14人中4人（28.6%）合計28人中15人（62.5%）がFMという病名を知っていると答えた。FMという病名を知ってい

る15人にFMを知っている理由を尋ねると、テレビでFMを知った5人、友人や知人がFMに罹患3人、女兄弟またはおばがFMに罹患3人、カナダでは多くの人が罹患しており常識3人、地下鉄の広告1人であった。

考察

日本とカナダのFMの有病率に差があるのかどうかという問題がある。カナダの一地域では男女を平均すると3.3%の有病率であるという報告がある[2]。アーミッシュ地域では7.2%、都市部では3.8%、地方では1.2%であるというカナダの報告もある[3]。日本では調査人数は不明であるが二つの地域の有病率は1.7%という報告がある[4]。また、医療機関の敷地内で就労する女性の2.0%、男性の0.5%がFMという日本からの報告もある[5]。

FMの有病率に人種差があるのかどうかという問題もある。各国の有病率には大きな差がある。しかし、その差が人種の違いによる差であるのか、疼痛の定義や調査方法の差であるのかは不明である。同一の験者が同一の調査方法で同一の国で異人種の有病率を調査した報告が三つある[6-7]。白人の有病率は2.26%で非白人の有病率は2.65%であるというブラジルの報告[6]とコーカサス人（白人）の有病率は0.6%でトルコ人の有病率は0.7%であるというイランの報告[8]では人種差がなかった。しかし、インド系住民の有病率は2.58%、マレー系住民の有病率は1.19%、中国系住民の有病率は0.33%であるというマレーシアの報告[7]では大きな人種差があった。

同一の験者が同一の調査方法で同一の国で異人種の有病率を調査した三つの報告とカナダと日本における有病率の報告から、カナダにおけるFMの有病率は日本における有病率の2倍程度という可能性はあるが大差はないと考えている。しかし、社会における認知度には大きな隔たりがある。

会場の係員は今回の学術集会からFMを知った可能性はあるが、FMを知っている理由から考えるとその可能性はほとんどないと思われる。もちろん今回の対象者が一般的なカナダ国民を代表していない可能性はある。しかし、偏りがある集団であるとしても、6割以上の国民が少なくともFMという病名を知っていることは驚愕すべきことである。一般的な日本人がFMという病名を知っている割合は報告されていないが、それより遙かに少ないことは確実である。

カナダでは地域の人々の約1.1%が医療機関においてすでにFMと診断されている

という報告がある[9]。それにより一般のカナダ国民がFMを知る機会が増える。それにより医師がFMという疾患の存在を受け入れ、FMと診断される患者さんが増える。このような良循環がカナダでは起きていると推測している。日本ではこれと逆の悪循環が起きていると推測している。

日本でもFMの医学論文や書籍、マスメディアの報道によりほとんどの医師は一度はFMという病名を一度は見聞きしていると私は推測している。しかし、FMという病名を受け入れてFMの診断、治療を行う医師はごく少数である。

日本においても徐々にではあるが、医学書や一般書[1]の出版、マスメディアでの紹介、インターネット上でのホームページやブログなどによりFMが医師や一般の国民に普及している。一般人口の6割以上の人が少なくともFMという病名を知っている国が存在することを知っていただきたい。日本がカナダに追いつく日が来ることを切に願っている。

結語

第13回国際疼痛学会学術集会の会場係員25人と某大学内の書店店員3人の合計28人にFMという病気の名前を知っていますかと英語で尋ねた。女性14人中11人（78.6%）、男性14人中4人（28.6%）合計28人中15人（62.5%）がFMという病名を知っていると答えた。

引用文献

- 1) 戸田克広: 線維筋痛症がわかる本. 主婦の友社, 東京, 2010.
- 2) White KP, Speechley M, Harth M, et al: The London Fibromyalgia Epidemiology Study: the prevalence of fibromyalgia syndrome in London, Ontario. *J Rheumatol* 26: 1570-1576, 1999.
- 3) White KP, Thompson J: Fibromyalgia syndrome in an Amish community: a controlled study to determine disease and symptom prevalence. *J Rheumatol* 30: 1835-1840, 2003.
- 4) 松本美富士, 前田伸治, 玉腰暁子, ほか: 本邦線維筋痛症の臨床疫学像の解明に関する研究. 厚生労働省編集, 平成16年度厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業研究報告書 第1分冊. 2005; 149-152.
- 5) Toda K: The prevalence of fibromyalgia in Japanese workers. *Scand J Rheumatol*

36: 140-144, 2007.

- 6) Senna ER, De Barros AL, Silva EO, et al: Prevalence of rheumatic diseases in Brazil: a study using the COPCORD approach. *J Rheumatol* 31: 594-597, 2004.
- 7) Veerapen K, Wigley RD, Valkenburg H: Musculoskeletal Pain in Malaysia: A COPCORD Survey. *J Rheumatol* 34: 207-213, 2007.
- 8) Davatchi F, Jamshidi AR, Tehrani Banihashemi A, et al: Effect of ethnic origin (Caucasians versus Turks) on the prevalence of rheumatic diseases: a WHO-ILAR COPCORD urban study in Iran. *Clin Rheumatol* 28: 1275-1282, 2009.
- 9) McNally JD, Matheson DA, Bakowsky VS: The epidemiology of self-reported fibromyalgia in Canada. *Chronic Dis Can* 27: 9-16, 2006.

著者紹介

著者紹介

戸田克広（とだかつひろ）

1985年新潟大学医学部医学科卒業。元整形外科医。2001年から2004年までアメリカ国立衛生研究所（National Institutes of Health: NIH）に勤務した際、線維筋痛症に出会う。帰国後、線維筋痛症を中心とした中枢性過敏症候群や原因不明の痛みの治療を専門にしている。2007年から廿日市記念病院リハビリテーション科（自称慢性痛科）勤務。『線維筋痛症がわかる本』（主婦の友社）を2010年に出版。電子書籍『抗不安薬による常用量依存—恐ろしすぎる副作用と医師の無関心、抗不安薬の罣、日本医学の闇—』<http://p.booklog.jp/book/62140>を2012年に出版。ブログにて線維筋痛症を中心とした中枢性過敏症候群や痛みの情報を発信している。実名でツイッターをしている。

ツイッター：@KatsuhikoTodaMD

実名でツイッターをしています。キーワードに「線維筋痛症」と入れればすぐに私のつぶやきが出てきます。痛みや抗不安薬に関する問題であれば遠慮なく質問して下さい。私ができる範囲でお答えいたします。

電子書籍：抗不安薬による常用量依存—恐ろしすぎる副作用と医師の無関心、精神安定剤の罣、日本医学の闇—<http://p.booklog.jp/book/62140>

日本医学の悪しき習慣である抗不安薬の使用方法に対する内部告発の書籍です。276の引用文献をつけています。2012年の時点では抗不安薬による常用量依存に関して最も詳しい日本語医学書です。医学書ですが、一般の方が理解できる内容になっています。

・戸田克広：「正しい線維筋痛症の知識」の普及を目指して!—まず知ろう診療のポインナー。CareNet 2011

<http://www.carenet.com/conference/qa/autoimmune/mt110927/index.html>

薬の優先順位など、私が行っている線維筋痛症の最新の治療方法を記載しています。

・戸田克広: 線維筋痛症の基本. CareNet 2012

<http://www.carenet.com/special/1208/contribution/index.html>

さらに最新の情報を記載しています。

ブログ：[腰痛、肩こりから慢性広範痛症、線維筋痛症へー中枢性過敏症候群](http://fibro.exblog.jp/) 戸田克広 <http://fibro.exblog.jp/>

線維筋痛症を中心にした中枢性過敏症候群や抗不安薬による常用量依存などに関する最新の英語論文の翻訳や、痛みに関する私の意見を記載しています。

線維筋痛症に関する情報

戸田克広: 線維筋痛症がわかる本. 主婦の友社, 東京, 2010.

医学書ではない一般書ですが、引用文献を400以上つけており、医師が読むに耐える一般書です。

電子書籍

通常の書籍のみならず電子書籍もあります。

電子書籍（アップル版、アンドロイド版、パソコン版）

<http://bukure.shufunotomo.co.jp/digital/?p=10451>

通常の書籍、電子書籍（kindle版）

http://www.amazon.co.jp/%E7%B7%9A%E7%B6%AD%E7%AD%8B%E7%97%9B%E7%97%87%E3%81%8C%E3%82%8F%E3%81%8B%E3%82%8B%E6%9C%AC-ebook/dp/B0095BMLE8/ref=tmm_kin_title_0

電子書籍（XPDF形式）

<http://books.livedoor.com/item/4801844>

カナダ国民において線維筋痛症の病名を知っている人の割合

2013年1月5日 第1版第1刷発行

<http://p.booklog.jp/book/63562>

著者：戸田克広（とだかつひろ）

発行者：吉田健吾

発行所：株式会社ブクログ

〒150-8512東京都渋谷区桜丘町26-1 セルリアンタワー

<http://booklog.co.jp>

カナダ国民において線維筋痛症の病名を知っている人の割合

<http://p.booklog.jp/book/63562>

著者：戸田克広

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/katsuhitodamd/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/63562>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/63562>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ